

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202594		
法人名	有限会社 グループホーム愛		
事業所名	グループホーム愛 (第1ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市西阿知町新田359-1		
自己評価作成日	平成 27年 8月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370202594-006&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370202594-006&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 27年 9月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にある通り、「拘束・束縛のない温かい介護」を目指し、全職員が利用者の心地よい暮らしの確保の為の支援に努めている。また200坪ある広い庭では、家庭菜園や花見を楽しむことができ、畑の中には車椅子の方も散歩できるような歩道もある。そこは、季節を感じ、人の温かさを感じる事の出来る空間となっている。また、ホールも広いスペースを確保しており、利用者の表情や、様子をひと目で見る事が出来るような造りになっており、穏やかでほっとできる環境作りが出来ます。利用者の皆さんに、自分らしく過ごしていただくために私たちに出来る支援を模索しご家族の協力も得て皆が笑顔で過ごせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・徹底した拘束の廃絶、代表者自ら職員へ拘束ゼロに向けての意識付け等、代表者の強固な思いが詰まった事業所であり、日常のケアにおいても生かされている。また、各ユニットとも職員、管理者間のコミュニケーションが円滑に取れており、現場からの意見や提案が管理者から代表者に伝わりやすく、運営にも反映されやすい。  
 ・他にはない最高の音響設備を備えた事業所であり、ボランティアの演奏や舞台演出、室内のカラオケ大会等で使用している。  
 ・200坪の広々とした庭園には菜園もあり、日中天気の良い日には、外に机を並べてご飯を食べたり、利用者の散歩道としても使われている。また、四季の変化や収穫の喜びも味わえる点が素晴らしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としている通り、入居者の立場となりその方らしく生活できるように心の通った、共に喜び合える暖かい介護でのケアを目指します。家庭的な雰囲気大切にホームを目指している。	代表者の開設に対する思い「入居者の立場にたった拘束、束縛のないあたたかい介護」を理念に込め、社訓と一緒に各階の事務所に掲示している。新入社員には、代表者自ら新人職員に訓話している。また、日々の申し送りや勉強会、会議の折にも触れており、全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣には住宅も少なく、地域での行事もない。公園などで散歩に出かけたときなどは、近隣住民との会話もできるが、なかなか日常的とはならない。	事業所で行う夏祭りの案内を、近隣住民へ声かけしている。近隣の方とは、いつでも立ち寄ってもらえる関係を作っている。町内会自体の活動が少なく、町内会には入会していない。	地域との関わりを深めるきっかけ作りとして、施設自慢の音響設備や広い庭園を外部へ提供する機会を設け、外部の人を招き入れることで、事業所への理解や地域とのさらなる交流に繋がると思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を実施することにより、認知症の方への理解や事業所の実情の理解を得るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施することにより、認知症の方への理解や事業所の実情の理解を得るように努めている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。家族や近隣のグループホーム、地域包括等が参加し、日々の様子や取り組みを報告している。議事録を玄関に掲示し、来訪者の目にも触れるように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常に生じる疑問等は介護保険課・指導監査室に随時相談している。	生活保護の申請や後見人等の件で何かあればその都度、電話したり足を運んだりしている。また、2ヶ月に一度、福祉事務所の職員が利用者の面談に訪れており、随時、情報を共有・提供しながら関係性を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行うとともに身体拘束のないケアに取り組んでいる。	代表者の施設開設の一番の動機であり、理念である。職員への意識付けは代表者自ら教育し、徹底させている。また、運営推進会議や月1回のミーティングの中で、職員に再確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行うとともに虐待のないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で知識を習得している。身寄りのない利用者向け、関係機関の協力を得て後見人制度活用が開始できた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の説明は十分に行い、利用者や家族が不安や疑問に思うことがないように努めている。また改訂を行う場合は、事前に契約者から同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者中心にどの職員も家族との交流を十分に行うようにしており、その場で様々な意見交換を行い、最良の方法を模索するよう努めている。外部者との運営推進会議の場を利用することでその場を設けている。	玄関に意見箱を設置しているが、投函されることは少ない。何かあれば直接、家族から職員へ言ってくることが多い。家族面会時にはコミュニケーションが上手くいこう、話しやすい環境作りに努めている。利用者の思いは、普段の関わり合いの中で聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の意見にも常に耳を傾けてくれる。そして、早期解決に努めてくれる。	何か問題や提案があれば、随時、各ユニットで話し合い、意見をまとめている。日頃から代表者と話す機会が多く、率直に意見や悩み等も相談できている。代表者は問題解決も早く、職員の意見を実直に受け入れ、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、より働きやすくするために職員の意見に耳を傾けてくれる。また職員の努力も見逃さず、やる気を引き出してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の質の向上に常に努めてくれ、研修等の提案をしてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議等を含む様々な機会に同業者との交流も充実させより良いケアが行えるようにしていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前・初期の段階で、利用者・家族・関係者からの聞き取りを行い、より利用者の希望・ご家族の意向に近づけられるようにする。また、その事を職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・初期の段階で、ご家族からの聞き取りを行い、より利用者の希望・ご家族の意向に近づけられるようにする。また、そのことを職員間で共有できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前・初期の段階で、ご家族・利用者・関係機関からの聞き取りを行い、より利用者の希望・ご家族の意向に近づけられるようにする。また、その事を職員間で共有できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「好きなこと」「得意なこと」「出来ること」の把握を十分に行い、時には家族となり、時には友人となり信頼できる相手となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と利用者家族は、出来るだけの情報交換をして、「家族だから出来ること」「職員だから出来ること」などを念頭に置き、お互いの方向性を揃えた上で介護に当たっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者一人一人の今までの生活スタイルを大切に、その時々々の希望に応じたその方らしい生活をするための環境作りや精神的ケアに努めている。	近所に住んでいる家族が毎日訪れたり、クリスマスカードを事業所に持って来てくれる友人もいる。通院の帰りに、ドライブがてら利用者の馴染みの場所を回り道して見に行くこともある。また、敬老の日には電話の取次ぎをしたり、利用者の馴れ親しんだ環境に配慮した取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその時々の様子の把握に努め、状態に合わせて無理のない範囲での関わり合いは常である。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム退所後も必要に応じてご本人やご家族と連携を取り支援することは当然のことと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中や、定期的な見直しの中で利用者の求めている事の把握に努めている。	日常生活の中で、利用者との対話する事が多く、特に食事中は、要望や意向の把握にゆったりと時間を取っている。個々の利用者の思いを把握し、ケアサービスに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の趣味などを活かして家庭的な雰囲気の中で生活できるように、職員間で利用者の情報を常に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が今できること、したいことの把握に努め、その情報は職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に家族やケアマネ・担当者等が意見交換できる場を設けている。それを活かし、利用者の希望もふまえた介護計画の作成に努めている。	月1回のモニタリング結果を踏まえ、かかりつけ医の所見や家族の思いも交えながら、担当職員を中心に話し合われている。また、その際出た意見や気づきを現状と照らし合わせながら、利用者個々にケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人記録・業務日誌に記載されており、PCで管理している。また、情報伝達として別に情報共有のための「申し送りノート」も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に必要なケアは環境により変化するとの認識を全職員が持っている。必要に応じて柔軟な対応をすることは当然と思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知の進行・ADL低下などを理由にご本人が取り組むことは難しくなったように感じる。可能な限り出来ることを模索し、ご家族の協力も得ながら楽しみのある豊かな暮らしとなるように支援するのは当然と思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の希望を踏まえながら、「かかりつけ医」を大切にしている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診支援が基本であり、継続利用している利用者が多い。通院支援は家族が行い、困難な場合は職員が対応している。また、歯科受診は随時、事業所に対応しており、家族の手伝いもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護職は不在だが、介護職員の気づいた点は、受診の都度、医師や看護師に説明し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、サマリーを作成して病院側に渡すようにしている。家族の意向も確認しながらスムーズに連携が取れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療行為が出来ない施設であることを説明して、地域の関係者との協力のもと支援を行うように努めている。	入居時、看護師を配置していないので医療行為は行えない旨を家族に説明し、承知してもらっている。重度化しても医療行為が無い場合は、受け入れる方針であり、過去に看取り経験もある。終末期における緊急時の対応や連絡体制は整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なマニュアルの見直しにより知識の共有は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な日中・夜間を想定した訓練を行っている。また地域の方にも理解と協力を得られるように運営推進会議の場を利用して働きかけに努めている。	年2回、防火設備の点検の際に、避難訓練を行っており、夜間の火災を想定している。実際に火をつけて、職員が水消火器を使って消火する訓練もある。食料の備蓄(保存食等)も万全である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき行っている。「身体拘束・虐待は絶対ないこと」を厳守して一人一人に寄り添った対応をするようにしている。	親しみを込めて、家族のような呼び方で利用者に対応している。家族にも同意と了承を得ている。トイレ誘導や失禁の際は、利用者の尊厳を守り、耳元での声かけ誘導を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活歴・認知状態に応じて声掛けの工夫・選択肢の提供をすることで、その方らしい生活ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者のペースに合わせてケア・希望するケアをするように職員間で徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしく居ていただくための支援に努めている。定期的な訪問理髪の実施をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理することは近日難しくなっているが、庭で出来た野菜の収穫や下処理・食後の片づけなどは本人の体調・気分も考慮しながら職員と共にやっている	専任の調理職員がおり、3食手作りにこだわっている。利用者の希望に沿ってメニューを作成している。施設の菜園で収穫した野菜が食卓によく上っている。ホットプレートで利用者と一緒にホットケーキを焼いたり、裏庭で収穫した芋を焼いて食べる事もある。天気の良い日には、裏庭の芝生で机を並べてご飯を食べることもある。洗い物等の手伝いを、率先して行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握を行うとともに、必要に応じて医師の指示も仰ぎながら摂取介助も行っている。個々に応じた食事状態・水分補給の方法・嗜好も考慮し支援に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にもうがいを習慣づけている。食後もしっかりと口腔ケアを行い、義歯については夜間帯に洗浄することも常になっている。定期的な訪問歯科診療も受けたいが、認知患者であるため抵抗・拒否も多いため難しい。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けを行うことにより自立に向けた支援を行っている。	各部屋にポータブルトイレを設置し、主として夜間に用いている。職員によるこまめな定期誘導の効果で、病院から退院したときは紙オムツだった利用者が布パンツ+パットに改善された例もある。立位の取れる方は、ほとんどの利用者がトイレでの排泄が来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人一人の状態を把握することに努め、水分補給や軽い運動・入浴時のマッサージをするように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴時間帯は設けているが、利用者の希望によってはそれを変更する。	週3回、13時～15時の間で声かけして、入浴支援を行っている。入浴を拒否する時は、決して無理強いせず、時間や日を改めて声かけしている。また、体調不良等により入浴できない時は、清拭やドライシャンプー、陰部洗浄、足浴などで対応し、常に清潔感を保てるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調・希望に応じて生活してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合には必ず職員間で情報を共有できるようにしており、誤った服薬とならないように、管理・見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割・したいこと・出来ることの把握に努め、それに取り組める時間帯を設けることで気分転換・充実した時間が送れるように援助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、職員と共にいつでも外出できるように努めている。	裏庭に出て、早朝の散歩を日課にしている利用者がいる。医療機関への受診や美容院、お墓参りなどの外出は、家族に協力を得て行っている。職員による個別対応で、一人ずつドライブに連れ出し、ファーストフード店等で外食を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族からの依頼で職員が行っているが利用者の希望に応じて、職員と共に買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望・家族の希望に応じて、手紙や電話をかけられるような支援をしている。文字が書けなくなった利用者に代わり職員が代筆して手紙を書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や行事の写真等、季節的な物を取り入れて、ユニット毎の特色を持った空間作りに努めている。	職員と共同作業して作成したちぎり絵がホールの壁に飾られており、季節によって変化している。温度計、空気清浄機、加湿器を活用して、常に快適な空間に保たれている。心地よいBGMが利用者の気持ちを落ち着かせている。	広々とした庭園をこれから、日常の外気浴等に活用して欲しいと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の希望に添った空間の中で思い思いの環境で過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人の趣味を生かして家庭的な雰囲気の中で暮らせるように居室には利用者の使い慣れた物の持ち込みを推進している。また生活しやすい環境作りにも工夫を凝らしている。	好みの家具類を家族と相談して持ち込んでいる。畳を敷いて、馴染んだ在宅の雰囲気を作っている居室もある。清掃や衣類等の整理は職員が行い、清潔と安全を保っている。居室入り口のドアは常に開放し、暖簾をかけてプライバシーを守りつつ、孤立感を防いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が場所間違いをして他者とトラブルになるようなことがないように家族の了解を得て自室には表札をかけている。自室以外の場にもわかりやすいように目印をつけ、誘導している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202594		
法人名	有限会社 グループホーム愛		
事業所名	グループホーム愛 (第2ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市西阿知町新田359-1		
自己評価作成日	平成 27年 8月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370202594-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370202594-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 27年 9月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にある通り、「拘束・束縛のない温かい介護」を目指し、全職員が利用者の心地よい暮らしの確保の為に支障に努めている。また200坪ある広い庭では、家庭菜園や花見を楽しむことができ、畑の中には車椅子の方も散歩できるような歩道もある。そこは、季節を感じ、人の温かさを感じる事の出来る空間となっている。また、ホールも広いスペースを確保しており、利用者の表情や、様子をひと目で見る事が出来るような造りになっており、穏やかでほっとできる環境作りが出来ています。利用者の皆さんに、自分らしく過ごしていただくために私たちに出来る支援を模索しご家族の協力も得て皆が笑顔で過ごせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・徹底した拘束の廃絶、代表者自ら職員へ拘束ゼロに向けての意識付け等、代表者の強固な思いが詰まった事業所であり、日常のケアにおいても生かされている。また、各ユニットとも職員、管理者間のコミュニケーションが円滑に取れており、現場からの意見や提案が管理者から代表者に伝わりやすく、運営にも反映されやすい。  
 ・他にはない最高の音響設備を備えた事業所であり、ボランティアの演奏や舞台演出、室内のカラオケ大会等で使用している。  
 ・200坪の広々とした庭園には菜園もあり、日中天気の良い日には、外に机を並べてご飯を食べたり、利用者の散歩道としても使われている。また、四季の変化や収穫の喜びも味わえる点が素晴らしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としている通り、入居者の立場となりその方らしく生活できるように心の通った、共に喜び合える暖かい介護でのケアを目指します。家庭的な雰囲気大切にホームを目指している。	代表者の開設に対する思い「入居者の立場にたった拘束、束縛のないあたたかい介護」を理念に込め、社訓と一緒に各階の事務所に掲示している。新入社員には、代表者自ら新人職員に訓話している。また、日々の申し送りや勉強会、会議の折にも触れており、全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣には住宅も少なく、地域での行事もない。公園などで散歩に出かけたときなどは、近隣住民との会話もできるが、なかなか日常的とはならない。	事業所で行う夏祭りの案内を、近隣住民へ声かけしている。近隣の方とは、いつでも立ち寄ってもらえる関係を作っている。町内会自体の活動が少なく、町内会には入会していない。	地域との関わりを深めるきっかけ作りとして、施設自慢の音響設備や広い庭園を外部へ提供する機会を設け、外部の人を招き入れることで、事業所への理解や地域とのさらなる交流に繋がると思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を実施することにより、認知症の方への理解や事業所の実情の理解を得るように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施することにより、認知症の方への理解や事業所の実情の理解を得るように努めている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。家族や近隣のグループホーム、地域包括等が参加し、日々の様子や取り組みを報告している。議事録を玄関に掲示し、来訪者の目にも触れるように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常に生じる疑問等は介護保険課・指導監査室に随時相談している。	生活保護の申請や後見人等の件で何かあればその都度、電話したり足を運んだりしている。また、2ヶ月に一度、福祉事務所の職員が利用者の面談に訪れており、随時、情報を共有・提供しながら関係性を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行うとともに身体拘束のないケアに取り組んでいる。	代表者の施設開設の一番の動機であり、理念である。職員への意識付けは代表者自ら教育し、徹底させている。また、運営推進会議や月1回のミーティングの中で、職員に再確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行うとともに虐待のないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で知識を習得している。身寄りのない利用者向け、関係機関の協力を得て後見人制度活用が開始できた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の説明は十分に行い、利用者や家族が不安や疑問に思うことがないように努めている。また改訂を行う場合は、事前に契約者から同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者中心にどの職員も家族との交流を十分に行うようにしており、その場で様々な意見交換を行い、最良の方法を模索するよう努めている。外部者との運営推進会議の場を利用することでその場を設けている。	玄関に意見箱を設置しているが、投函されることは少ない。何かあれば直接、家族から職員へ言うことが多い。家族面会時にはコミュニケーションが上手くいくよう、話しやすい環境作りに努めている。利用者の思いは、普段の関わり合いの中で聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の意見にも常に耳を傾けてくれる。そして、早期解決に努めてくれる。	何か問題や提案があれば、随時、各ユニットで話し合い、意見をまとめている。日頃から代表者と話す機会が多く、率直に意見や悩み等も相談できている。代表者は問題解決も早く、職員の意見を実直に受け入れ、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、より働きやすくするために職員の意見に耳を傾けてくれる。また職員の努力も見逃さず、やる気を引き出してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の質の向上に常に努めてくれ、研修等の提案をしてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議等を含む様々な機会に同業者との交流も充実させより良いケアが行えるようにしていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前・初期の段階で、利用者・家族・関係者からの聞き取りを行い、より利用者の希望・ご家族の意向に近づけられるようにする。また、その事を職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・初期の段階で、ご家族からの聞き取りを行い、より利用者の希望・ご家族の意向に近づけられるようにする。また、そのことを職員間で共有できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前・初期の段階で、ご家族・利用者・関係機関からの聞き取りを行い、より利用者の希望・ご家族の意向に近づけられるようにする。また、その事を職員間で共有できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「好きなこと」「得意なこと」「出来ること」の把握を十分に行い、時には家族となり、時には友人となり信頼できる相手となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と利用者家族は、出来るだけの情報交換をして、「家族だから出来ること」「職員だから出来ること」などを念頭に置き、お互いの方向性を揃えた上で介護に当たっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者一人一人の今までの生活スタイルを大切にして、その時々希望に応じたその方らしい生活をするための環境作りや精神的ケアに努めている。	近所に住んでいる家族が毎日訪れたり、クリスマスカードを事業所に持って来てくれる友人もいる。通院の帰りに、ドライブがてら利用者の馴染みの場所を回り道して見に行くこともある。また、敬老の日には電話の取次ぎをしたり、利用者の馴れ親しんだ環境に配慮した取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者のその時々の様子の把握に努め、 状態に合わせて無理のない範囲での関わり 合いは常である。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム退所後も必要に応じてご本人やご 家族と連携を取り支援することは当然のこと と思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話の中や、定期的な見直しの中で 利用者の求めている事の把握に努めてい る。	日常生活の中で、利用者とは対話する事が多 く、特に食事中は、要望や意向の把握にゆっ たりと時間を取っている。個々の利用者の思 いを把握し、ケアサービスに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用者一人一人の趣味などを活かして家庭 的な雰囲気の中で生活できるように、職員 間で利用者の情報を常に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者が今できること、したいことの把握に 努め、その情報は職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	定期的に家族やケアマネ・担当者等が意見 交換できる場を設けている。それを活かし、 利用者の希望もふまえた介護計画の作成 に努めている。	月1回のモニタリング結果を踏まえ、かかり つけ医の所見や家族の思いも交えながら、 担当職員を中心に話し合われている。また、 その際出た意見や気づきを現状と照らし合 わせながら、利用者個々にケアプランを作成 している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人記録・業務日誌に記載 されており、PCで管理している。また、情報 伝達として別に情報共有のための「申し送り ノート」も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に必要なケアは環境により変化するとの認識を全職員が持っている。必要に応じて柔軟な対応をすることは当然と思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知の進行・ADL低下などを理由にご本人が取り組むことは難しくなったように感じる。可能な限り出来ることを模索し、ご家族の協力も得ながら楽しみのある豊かな暮らしとなるように支援するのは当然と思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の希望を踏まえながら、「かかりつけ医」を大切にしている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診支援が基本であり、継続利用している利用者が多い。通院支援は家族が行い、困難な場合は職員が対応している。また、歯科受診は随時、事業所に対応しており、家族の手伝いもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護職は不在だが、介護職員の気づいた点は、受診の都度、医師や看護師に説明し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、サマリーを作成して病院側に渡すようにしている。家族の意向も確認しながらスムーズに連携が取れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、医療行為が出来ない施設であることを説明して、地域の関係者との協力のもと支援を行うように努めている。	入居時、看護師を配置していないので医療行為は行えない旨を家族に説明し、承知してもらっている。重度化しても医療行為が無い場合は、受け入れる方針であり、過去に看取り経験もある。終末期における緊急時の対応や連絡体制は整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なマニュアルの見直しにより知識の共有は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中・夜間を想定した訓練を行っている。また地域の方にも理解と協力を得られるように運営推進会議の場を利用して働きかけに努めている。	年2回、防火設備の点検の際に、避難訓練を行っており、夜間の火災を想定している。実際に火をつけて、職員が水消火器を使って消火する訓練もある。食料の備蓄(保存食等)も万全である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき行っている。「身体拘束・虐待は絶対ないこと」を厳守して一人一人に寄り添った対応をするようにしている。	親しみを込めて、家族のような呼び方で利用者に対応している。家族にも同意と了承を得ている。トイレ誘導や失禁の際は、利用者の尊厳を守り、耳元での声かけ誘導を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活歴・認知状態に応じて声掛けの工夫・選択肢の提供をすることで、その方らしい生活ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者のペースに合わせてケア・希望するケアをするように職員間で徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしく居ていただくための支援に努めている。定期的な訪問理髪の実施をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理することは近日難しくなっているが、庭で出来た野菜の収穫や下処理・食後の片づけなどは本人の体調・気分も考慮しながら職員と共にしている	専任の調理職員がおり、3食手作りにこだわっている。利用者の希望に沿ってメニューを作成している。施設の菜園で収穫した野菜が食卓によく上っている。ホットプレートで利用者と一緒にホットケーキを焼いたり、裏庭で収穫した芋を焼いて食べる事もある。天気の良い日には、裏庭の芝生で机を並べてご飯を食べることもある。洗い物等の手伝いを、率先して行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握を行うとともに、必要に応じて医師の指示も仰ぎながら摂取介助も行っている。個々に応じた食事状態・水分補給の方法・嗜好も考慮し支援に当たっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にもうがいを習慣づけている。食後もしっかりと口腔ケアを行い、義歯については夜間帯に洗浄することも常になっている。定期的な訪問歯科診療も受けたいが、認知患者であるため抵抗・拒否も多いため難しい。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けを行うことにより自立に向けた支援を行っている。	各部屋にポータブルトイレを設置し、主として夜間に用いている。職員によるこまめな定期誘導の効果で、病院から退院したときは紙オムツだった利用者が布パンツ+パットに改善された例もある。立位の取れる方は、ほとんどの利用者がトイレでの排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人一人の状態を把握することに努め、水分補給や軽い運動・入浴時のマッサージをするように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴時間帯は設けているが、利用者の希望によってはそれを変更する。	週3回、13時～15時の間で声かけして、入浴支援を行っている。入浴を拒否する時は、決して無理強いせず、時間や日を改めて声かけしている。また、体調不良等により入浴できない時は、清拭やドライシャンプー、陰部洗浄、足浴などで対応し、常に清潔感を保てるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調・希望に応じて生活してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合には必ず職員間で情報を共有できるようにしており、誤った服薬とならないように、管理・見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割・したいこと・出来ることの把握に努め、それに取り組める時間帯を設けることで気分転換・充実した時間が送れるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、職員と共にいつでも外出できるように努めている。	裏庭に出て、早朝の散歩を日課にしている利用者がいる。医療機関への受診や美容院、お墓参りなどの外出は、家族に協力を得て行っている。職員による個別対応で、一人ずつドライブに連れ出し、ファーストフード店等で外食を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族からの依頼で職員が行っているが利用者の希望に応じて、職員と共に買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望・家族の希望に応じて、手紙や電話をかけられるような支援をしている。文字が書けなくなった利用者に代わり職員が代筆して手紙を書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や行事の写真等、季節的な物を取り入れて、ユニット毎の特色を持った空間作りに努めている。	職員と共同作業して作成したちぎり絵がホールの壁に飾られており、季節によって変化している。温度計、空気清浄機、加湿器を活用して、常に快適な空間に保たれている。心地よいBGMが利用者の気持ちを落ち着かせている。	広々とした庭園をこれから、日常の外気浴等に活用して欲しいと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の希望に添った空間の中で思い思いの環境で過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人の趣味を生かして家庭的な雰囲気の中で暮らせるように居室には利用者の使い慣れた物の持ち込みを推進している。また生活しやすい環境作りにも工夫を凝らしている。	好みの家具類を家族と相談して持ち込んでいる。畳を敷いて、馴染んだ在宅の雰囲気を作っている居室もある。清掃や衣類等の整理は職員が行い、清潔と安全を保っている。居室入り口のドアは常に開放し、暖簾をかけてプライバシーを守りつつ、孤立感を防いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が場所間違いをして他者とトラブルになるようなことがないように家族の了解を得て自室には表札をかけている。自室以外の場にもわかりやすいように目印をつけ、誘導している。		